

# 常滑市議会 文教厚生委員会 視察報告

## 1 日 程

平成 30 年 7 月 10 日（火）～7 月 11 日（水）

## 2 視察先及び調査項目

（1）富山県富山市

富山市立図書館本館及びガラス美術館について

（2）富山県高岡市

高岡市スポーツ推進プランについて

## 3 参加者

委員 長 相羽 助宣 副委員長 西本 真樹

委 員 中村 崇春、森下 宏、盛田 克己（随 行） 都筑 奈美

## 4 視察内容

### （1）富山県 富山市 「富山市立図書館本館及びガラス美術館について」

平成 12 年、地元百貨店大和富山店の移転表明を受け、地区内の権利者による再開発組合を設立し、関係者と協議を重ねてきた。平成 22 年に富山第一銀行の本店が市街地再開発事業に参加するとの決定を受け、富山市は街の賑わいや活性化に寄与することを目的として老朽化により移転を検討していた「富山市立図書館本館」とガラスの街とやまの集大成として設置場所を検討していた「富山市ガラス美術館」を中心市街地に複合施設として整備することを決めた。

複合施設「TOYAMAキラリ」は、隈研吾氏が設計している。総事業費は、建物全体として建設費約 182.8 億円。市の床取得費は、図書館、ガラス美術館あわせて約 85 億 4,800 万円。財源は社会資本整備総合交付金 30 億円、行革推進債などが約 54 億 7,800 万円。

本館及び地域館 6 館、分館等 18 館の 25 館及び自動車文庫 2 台から成り立っている。

100万冊の蔵書に加え、約500タイトルの雑誌を揃えている。雑誌の270タイトルは市内企業（約170社）がスポンサーになっている。

指定管理制度は行っておらず、各フロアの窓口業務等は3年間の業務委託をしている。正職員は司書職員として雇用され、他の部所に移動はない。（正職員18名、嘱託6名）

窓口業務、蔵書検索、蔵書管理、資料収集、蔵書点検、レファレンス、統計等の図書館業務を、NTTデータのコンピュータネットワークシステムで行っている。

図書館の交流事業として、ほぼ毎週講演会、コンサート、おはなし会を行っている。イベントがあるときは、フェイスブックで情報を発信している。

来館者は、新本館になって3倍になったが、貸出冊数や利用者登録者数は横ばいである。

市のコンパクトシティ推進政策により、駐車場を設けていない。高齢者から設置要望はある。

ハンディのある人には、以下のような活動を行っている。

- ①録音図書サービス（当館のボランティア団体が作成した録音図書を視覚障がい者へ郵送で貸し出し）
- ②郵送図書サービス（身体障がい者への郵送で図書の貸し出し）
- ③自動車文庫サービス（自動車文庫を2台所有。図書館から遠く離れた地域だけでなく、高齢者施設、病院、支援学校等の施設へも巡回）

ガラス関係の事業と医薬品産業との関係は深く、昔から富山の薬として継続してきており、薬の瓶の需要にてガラス関係事業は発展してきた。

市としては、ガラス造形研究所として、公立ガラス専門教育機関（定員40名）であるガラス工房を運営して、ガラス事業を支えている。

2階から4階には、富山ゆかりのガラス作家50点を展示室壁や図書館に展示している。

4階常設展示室には、学芸員が集めた市所蔵の作品約400点の中から、年2回展示かえを行い紹介している。

#### (ア) 個人の所感

##### (相羽助宣委員)

TOYAMAキラリビルの外観を見たとき、立山をイメージしているとは知っていたが、街の中に突然立山が現れた位の感動を受けた。多分、見る時間・天候等でいろいろな顔を見せるのではないか。室内に入ると、2階から6階まで斜めに貫く吹抜けになっていて、壁・天井には、たくさんの杉材が使用され、外観の硬質とは対照的に温かみのある室内であった。さすが、世界的な建築家の隈研吾氏の設計した建物を肌で感じることができ、大変に感動した。

図書館・ガラス美術館どちらも最先端の施設であり、ソフト面においてはメインの業務はほとんど職員で行っており、窓口業務等は民間に業務委託している。指定管理者に全て業務を委託している昨今、さすが県庁所在地の市であり財政的に余裕があるからこそできることではないかと感じた。

市の規模で、市民に対する社会教育の環境に違いが出てしまっているものか、国は財政的に余裕のない市には、立派な建物ではなくてもいいのでハード面・ソフト面に補助金等を出していただき、少しでも格差を縮めてほしいものである。

##### (西本真樹委員)

富山市の中心街にあり、街のシンボリックな建物であると感じた。

毎週講演会やコンサート、おはなし会などのイベントで多くの人々が来館する工夫がなされていると感じた。

書籍の貸出・返却もICチップを利用することで簡略化しており、利便性も上がっているように感じた。書籍を無断で持ち出せないような方法も確立しているように感じた。

ガラス美術館も富山市の特色を出したもので、来館者を惹きつけるような工夫がさ

れていた。

**(中村崇春委員)**

世界的建築家隈研吾氏設計の建物であることや、地域の伝統産業を取り入れていることで観光としても利用できていることは新市庁舎建設や文化施設の問題を抱える本市にとって非常に参考になる。

建物の基本理念が明確でわかりやすく、そのことも観光地としての魅力となっている。また、地域の特徴もあらわしていることは地域への愛着も喚起するのではないか。

周辺小学校児童を定期的に招くことは、図書館の利用率を上げ、学習意欲へも繋がると感じた。

雑誌の半数以上を企業のスポンサーにより揃えていることは富山市全体で図書館を盛り上げることに繋がり、本市にとっても大いに参考になると考える。

**(森下宏委員)**

大変立派な図書館やガラス美術館でうらやましい限り。

ウィークデーにもかかわらず多くの市民等がいた。

特に美術館では、高価（何千万円）なガラス作品が数点あり購入予算も多いようだ。

**(盛田克己委員)**

富山市は公共交通を軸にコンパクトシティを実現し、図書館とガラス美術館を一体化した複合施設となっている。

館内に入ると、6階まで吹き抜けで室内は富山産木材による構造となっていた。各フロアも余裕あるスペースで、これが図書館かと驚きの風景であり、図書館としてのイメージは払拭されたが、きちんと分類されわかりやすい図書陳列であった。指定管理として運営されているが、職員も多くいろいろな対応に答えられるようであり、図書館分館も市内に23カ所あり、羨ましい限りであった。ガラス美術館として併設された展示場は照明もこだわりがあり、著名な作家の陳列がされて監視員も一室に数名配置されていて贅沢な感じも受けた。

## (イ) 常滑市への反映

### (相羽助宣委員)

本市においても、新市庁舎と図書館・文化会館の複合施設を当初考えていたが、いろいろ事情があり頓挫した。しかし、当施設では来館者は3倍になったということであり、いろいろな面で相乗効果はあるため、複合施設（図書館・焼き物資料館）を本市も進めて行くべきと考える。

本市の図書館運営においては、指定管理者の努力もあり、現在の施設なりに十分に運営を行っているのではないか。

### (西本真樹委員)

本市でも文化会館と公民館、公民館と図書館分館の複合施設はあるが、今後老朽化が進む、文化会館や図書館を複合化することで、市民が集う憩いの場ができる可能性が見られる。

富山市では複合化後も図書館分館を残していた。本市も複合施設化した後も各地域にある図書館分館は残しておかなければ、図書館本館から遠い利用者の利便性が損なわれると感じる。

富山市では図書館の機能を残すために直営で行い、窓口業務等を業務委託していた。本市でも市の財産といえる図書館機能については直営で行うべきだと感じた。

### (中村崇春委員)

図書館を含めた文化施設を新設する際は、複合施設が効果的と考える。つまり相乗効果により利用者の増加を見込むことができるのではないかと考える。しかし、基本理念が明確で魅力的である必要がある。そこがしっかりしていれば建設費用を削減しても利用者の満足度は満たすことができるのではないかと思う。

市内児童や生徒を定期的に招いたり、出張講座を開催して楽しさを伝えることは現時点でも十分可能なことと考える。

住民参加により知恵を出してもらうことは当事者意識の喚起につながり、より身近

な施設となると考える。

(森下宏委員)

常滑市にも、やきものを中心とした美術館をりんくう地区につくれないか。

(盛田克己委員)

常滑市の図書館は早急な建てかえを要するが、落ち着きができるスペースがあり、展示等ができる複合施設がいいのではないかと感じた。



## (2) 富山県 高岡市 「高岡市スポーツ推進プランについて」

「高岡市スポーツ推進プラン」は、平成 12 年のとやま国体を契機として、市民の豊かなスポーツライフの実現としてスポーツを通じた活力ある地域社会の創造を推進するために、国のスポーツ基本法に基づき平成 25 年 3 月に策定された。

地域住民が身近な施設でライフステージに応じて参加できるスポーツ教室や競技については、体育協会が主体となり個人のニーズに応じて参加できるように 36 コース設けられている。主に市民体育大会やレクリエーション大会などで、新スポーツも取り入れられている。

地域の体育振興会は 36 地区にあり、市民スポーツの普及や市民スポーツ大会（9 種目）や指導者講習会を開催している。スポーツ推進委員については、教育委員会が委嘱する公的なスポーツ指導者でスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整、住民に対するスポーツの実技指導や助言を行うなど、生涯スポーツを推進するためのリーダー的役割を担うこととされている。現在 163 名（1 地区に 45 名）。

教員向けの指導者講習会は、陸上や水泳の協会から講師を招いて指導している。スポーツ指導者の人材確保や養成方法については、各協会で開催講習会を開き、有資格者が指導に当たるようにしている。指導者の高齢化が進み課題となっている。

小中学校のクラブ活動には、教師が指導者として携わっているが平成 30 年度から部活指導員を 1 名配置している。土日はどちらか 1 日を休みとして週休 2 日を目指している。教師の多忙化の改善としては、地域調査を行いスポーツのニーズを調査中で、小中学生が地域で活動できるようにできればと考えている。県の事業として、スポーツエキスパート派遣事業から 96 人が派遣されている。一人当たり 1 回 2,000 円で 24 回分の派遣を実施している。

スポーツ推進プラン関係の事業予算額は、平成 30 年度は約 4 億円だが、体育施設の改修も含まれている。

高岡市体育協会は、加盟団体 40 団体、連携スポーツ団体 4 団体、企業スポーツ団体

4 団体で組織されている。スポーツ少年団、体育振興会、スポーツ推進委員協議会等の関係団体と連携して全市的なスポーツ活動の推進に取り組むとともに、指定管理者制度が導入されている市スポーツ施設の指定管理者として管理運営に努めている。

トップアスリート育成強化に向けたジュニア選手の強化策として、重点強化スポーツとして 13 種目、576 万円を助成金として支給している。

スポーツ人口増加策として、スポーツイベントの充実、スポーツ教室の拡充などを 29 の体育施設で実施し、どこでも利用者が増加している。また、スポーツ観戦人口増加策として、地元プロチームのホームゲーム観戦、大会誘致などに努めている。

週 1 回以上スポーツを行っている市民の割合は、平成 24 年 35.4%、平成 29 年度 30.8%と下がっているが、仕事の業務形態の多様化により下がっているのではないかと考える。

最近人気があるスポーツは、一人でできるスポーツで、グループで行うバスケットやソフトボールなどは競技人口が横ばいである。高齢者に人気のあるスポーツは、ターゲットゴルフ、グランドゴルフで、競技人口が増加している。地域トレーニングセンターについては、平成 7 年に策定された「高岡市生涯スポーツプラン」に沿って、スポーツ振興に取り組んできた。現在は 5 地区で運営している。平成 17 年に旧福岡町と合併して以降は、現状を維持する形で進んでいる。

地域トレーニングセンターは公民館と併設されており、年間 200 万円の予算で運営している。一施設年間約 5,000 人が利用している。課題としては、今まで無料で利用が可能であったが、今後有料化を検討していることである。

#### (ア) 個人の所感

##### (相羽助宣委員)

人口は 17 万 2,542 人で、平成 30 年度一般会計予算は 677 億 2,352 万 8 千円である。各施設も充実しており、所管のスポーツ課にて、きめ細かなスポーツ行政が行われていた。



**(西本真樹委員)**

「スポーツ推進プラン」という長期プランを作成することによって、個人ニーズにも対応できるようにスポーツ教室や競技を36コースを設けたり、各地に体育振興会があり、スポーツ推進委員によって地域でスポーツの普及を行う等、スポーツを市民の中に根付かせるために積極的な取り組みを行っていると感じた。

**(中村崇春委員)**

スポーツを通じて市民の健康な生活を営むよう取り組んでいることは、高齢化社会となっている現代日本には必須であると感じた。

トップアスリートの育成や表彰、市民との交流は、副次的ではあるが地域への誇りと愛着にも繋がることであり、行政が行う施策としては大変よい内容と感じた。

**(森下宏委員)**

スポーツ振興は、大変重要であり、大きな体育館は大変うらやましい。

当日は、平日でもあり、利用者は少ないようだった。

**(盛田克己委員)**

スポーツを通じて、活力ある元気な街づくりをベースに、国の「スポーツ基本法」に基づき高岡市総合計画に位置づけたスポーツ施設整備を図っている。体育協会を公益財団法人として、関係機関、団体などと連携を図り、市民スポーツから、ジュニア選手のアスリート育成までを医科学的なサポートをされ、指導者の育成にも力を入れ、年間4億円のスポーツ関係予算で50%以上の市民が何らかのスポーツに取り組んでいる。各種大会には100万円以上の補助がされ、まちづくり、人づくりはスポーツからを実践している。教育委員会のスポーツ課には東京オリンピック、パラリンピック推進室があり、常滑市以上の一般会計の負債と職員給与の削減をしているなか、まちづくりはスポーツを通してやることを実践しておりすばらしいと感じ、うらやましい限りである。

本市においては、スポーツ施設の老朽と不足しているグラウンド、指導者の育成不備、各種大会への補助等、全てにおいて考えさせられた視察であった。

## (イ) 常滑市への反映

### (相羽助宣委員)

本市においては、生涯学習スポーツ課の中でスポーツ行政が行われていて、高岡市との違いはあるが、今後の本市のスポーツ行政を進める指針にするためにも、常滑市スポーツ推進プランを作成すべきと考える。

### (西本真樹委員)

小中学校のクラブ活動について、地域でのスポーツ活動の調査を行い、地域と連携して教師の多忙化改善を行っていることは、本市としても参考にできるのではないかと考える。

スポーツ推進委員制度は、地域のスポーツ普及に一役買っており、市民の健康寿命を延ばすためにも検討してみる価値はあると感じた。

### (中村崇春委員)

スポーツ施策は行政サービスでもかなり重要であると考えているので、高岡市のようにスポーツ教室をふやし、時期をみて廃止や民間委託を考慮しながら継続的に柔軟に対応してもらいたい。

本市でも、オリンピック選手やプロスポーツ選手が輩出されている。一過性ではなく、継続して彼らを応援し、市民と交流してもらうことで次世代のトップアスリートが生まれ、地域の盛り上がりにも繋がると思う。なので、積極的にトップアスリートへの支援と市民との交流を始めてもよいと考える。

### (森下宏委員)

常滑にも立派な体育館があるが、利用者の比較はどうか。また、種目により差があると思うが、その対策はどうか。

### (盛田克己委員)

スポーツを通じた取り組みをもっと推進していくべき。

